

見川地区コミュニティプラン

あふれる元気

わたしのまち



住みよい見川をつくる会

保存版

平成 27 年 3 月

## 地域コミュニティプランとは

わたくしたちは、お互いが心をふれあい思いやりのある、豊かな環境の見川のまちに住んでいます。しかし近年は、高齢化が進むとともに核家族化や働く若い人たちが増え、地域の繋がりが薄くなりつつあるのも事実です。

そこで、あらためて「このまちに住んで良かった」と思える提案をしていこうとするのが“地域コミュニティプラン”策定の活動です。

この活動では、地域の伝統や文化・いま行

われている様ざまな事からについて、その良さを再発見して、発展させるための方策を考えます。

そして、わたくしたちが考える地域のあり方について、近い将来への目標をたて、その課題を出し合い解決に向けた具体的な活動として、次の6つの柱を提案します。

さらに、活動を通して得られた地域の夢や将来像をまとめることにより、起爆剤として行政に生かされることを願っています。

### 地域 コミュニティ プラン 6つの柱



## 文教と 交流のまち

見川小学校・中学校、幼稚園の改築が進められています。その隣には見川市民センターがあり“寺子屋”教室を開くなど子どもたちの学習活動を積極的に受け入れています。また知識と経験が豊富で元気な、たくさんの高齢者がセンターを利用しています。地域では見川小と協力して“桜のライトアップ”や“ふれあいまつり”が行われています。地域の人と子どもたちが、もっと交流できる場所だと考えます。学校での勉強以外の知識を、地域の人から学ぶことができます。学校・市民センターを中心とした、多世代が交流できる「文教のまち」づくりを提案します

### いま行われていること

- 桜のライトアップ
- 生涯学習活動
- 寺子屋教室
- 広報紙発行など
- 桜川ハサケ稚魚放流
- ふれあいまつり
- 生涯学習フェスティバル
- 水戸郷土かるた大会
- 寿大学



義公ゆかりの“しだれ桜”満開のライトアップ(見川小)

### これから 充実させ たいこと

- 多世代交流の文教のまち
- 子ども会や学習クラブ充実
- 地域マイスターバンク
- 広報活動の拡充

## 歴史と 宝のあるまち

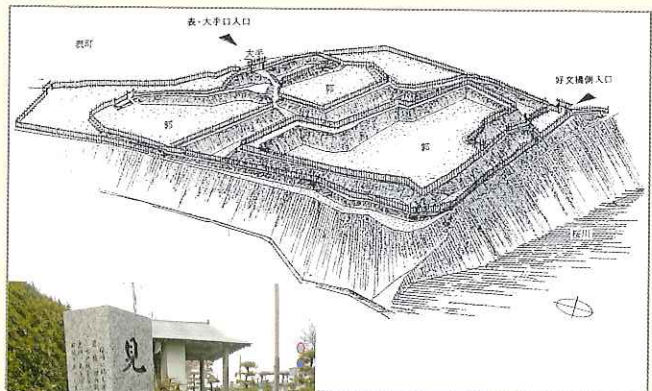
見川は歴史のあるまち、数々の宝があります。また地区内には“結い”や“講”など、絆を深める慣わしがつい最近まで残っておりました。時代の流れのなかで、宝や慣わしが埋もれていきますが、もういちど郷土の資源と伝統を見つめ直し、新しい文化として発展させたいと考えます。いまは藪に覆われた見川城跡ですが、逆に中世の城郭としての威容が残っています。城跡整備のため、みんなで汗をかくことを提案します。

### これから 充実させ たいこと

- 見川城跡の整備
- 見川小のしだれ桜保存
- 見川のお宝探検マップ

### 見川の宝

- 妙雲寺
- 多宝院
- 護国神社
- 見川稲荷神社
- 偕楽園公園(玉龍泉、もみじ谷、円山)
- 徳川ミュージアム
- 一本松のお地蔵さん
- 井戸権現
- 見川小のしだれ桜
- サケの遡上する桜川



整備をすすめたい見川の宝  
中世の城跡 見川城

## 支え合う やさしいまち

見川地区でも高齢化や核家族化が進んでいます。ひとり暮らしのお年寄りや、子育てに悩むお母さん方への関心は高まるばかりです。いまの時代を築いたお年寄りを思いやり、次代を担って育つ子どもたちのため、福祉という枠を超えなければなりません。自治会・町内会と民生委員などと連携を強め、みんなで助け合い、支えあう環境を整えていかなければなりません。

これから  
充実させ  
たいこと

- 高齢者と子どもたちの交流
- 子育て、母親支援充実
- 要介護者支援の充実
- 高齢者の集える場所確保

## いま行われていること

- 要支援者の把握
- ひとり暮らしの方と食事会
- 年賀状や雪中見舞届け
- 敬老会などの支援事業
- 子育て広場など母親支援
- 子ども見守り



若いお母さんを支援する 子育て広場

## 美しい 環境のまち

前回策定されたコミュニティプランの一つとして“花のまちづくり”が進められました。ボランティア団体によってタネから育てられた花苗が、まちの中の花壇を明るく彩りました。この精神を引き継ぎ、町内ごとに“花いっぱい”のまちを目指した花壇づくり、“ごみゼロ”のまちを目指した清掃活動などを進めていきましょう。

これから  
充実させ  
たいこと

- まちかど花壇の拡充
- 資源回収 / 再生活動
- 桜川の整備（ホテルも観察できる遊歩道）

## いま行われていること

- まちかど花壇づくり
- ごみ不法投棄防止
- 花壇コンクールの実施
- 先進地区の視察研修
- 資源物の集団回収



町内会による資源物回収



花壇コンクール審査風景

## 安全 安心のまち

車社会の中で交通事故があとをたちません。高齢者を狙った詐欺事件も増えています。子どもたちや高齢者などの見守りは、地域をあげて取り組まなければなりません。

また東日本大震災では、地域が孤立しかねない経験をしました。災害に対する備えをたかめ、もしもの時、機敏に行動できるよう自治会・町内会組織を充実させましょう

これから  
充実させ  
たいこと

- 自治会 / 町内会組織充実
- 防災マップの整備
- 学校と一緒に防災訓練
- 空き家、空き地対策
- 防犯灯のLED化

## いま行われていること

- 交通安全立哨
- 防犯パトロール
- 声かけ運動
- 年末年始夜間警戒
- 防災倉庫設置と備品整備
- 災害時生活用水協力  
井戸登録
- 防犯灯設置
- 一時避難場所の設置



小学生引き渡し訓練・見守り

## 健康で 元気なまち

わたくしたちの願いは、いつも元気で明るい毎日をおくることです。心も体も健康であれば、毎日が楽しく生活に潤いができます。

地域みんなが一堂に集う運動会をはじめ、個人や同好会などでも、いろいろなスポーツ活動を行なっています。地域でみんなが楽しくふれあい、体を動かす機会を増やし、健康寿命を高めていきましょう。将来的には、年齢に関係なくだれでも参加できる“総合型スポーツクラブ”の設置を目指します。

これから  
充実させ  
たいこと

- 各種スポーツ大会の継続
- ニュースポーツ開発と普及
- 総合型スポーツクラブ設置

## いま行われていること

- 市民運動会
- 市民歩く会
- ソフトボール大会
- ウォーキングコース設置
- グラウンドゴルフなど  
ニュースポーツ
- 高齢者スポーツ大会
- いきいき健康体操
- スポーツ少年団活動
- 子ども会ミニ運動会
- 同好会による各種ス  
ポーツ活動



さかんな高齢者のスポーツ活動

## 見川地区の歴史 (1)

時代	年号	西暦	郷土のできごと
縄文	約1万年前～弥生時代		桜山・見川遺跡(見川1丁目徳川家宅地)から縄文土器が出土
弥生	西暦3000年前～西暦300年ころ		桜山・見川遺跡徳川家宅地内に弥生遺跡がある。稲作技術を取り入れた。
古墳	4世紀～7世紀ころ		古墳が築かれた時代。大内田遺跡(見川4丁目)、見川遺跡(見川1丁目)があり、土師器(素焼土器)、須恵器(陶質土器)が出土。
鎌倉	建久 3年	1192	常陸大掾に馬場資幹。 馬場資幹の四男、箕川四郎長幹が見川城築城。 吉田社領家小槻国宗下文写(吉田神社文書)に「箕川村荒野寺町ヲ開発」とあり、吉田神社の祈祷のための料田とされた。 吉田社領家小槻千宣御教書写に「箕河村」とある。
	健暦 3年	1200年代	
	元亨 3年	1213	
		1323	
室町	文明 4年 延徳 年間	1472 1489～91	御滝山に井戸を掘り、八代竜王を祀り、井戸権現と呼ぶ。 江戸氏家臣、春秋岩見守が見川城を居城とする。
安土 桃山	天正 18年 慶長 7年	1590 1602	佐竹氏の常陸支配で春秋氏所領没収。 徳川幕府となり、佐竹氏秋田へ移封となる。 この頃、見川城も廃城となったと見られる。
江戸	寛永 12年 18年	1635 1641	水戸領御高帳先高に「見川村」とあり、98戸。 水戸藩で検地(寛永検地)が行われ「見川誌」に高843石6斗4升5合、96町6反2畝4歩とある。 徳川光圀第二代藩主となる。 徳川光圀、見川台地東端の地、緑岡(御殿山)に高枕亭山荘を建てる。 妙雲寺、見川に移建。 お稗倉建造(凶作に備え、粃・稗を蓄えた) 多宝院現在地(見川1丁目)に再興する。 稻荷神社現在地(見川2丁目)に移される。 徳川斉昭、第九代藩主となる。 徳川斉昭、偕楽園を開く。 水戸、薩摩浪士桜田門外にて井伊直弼を暗殺。 徳川斉昭死去。 藤田小四郎ら天狗党、筑波山に挙兵。 武田耕雲斎、藤田小四郎ら敦賀で処刑される。
	寛文 元年 5年	1661 1665	
	延宝 6年	1678	
	貞享 3年	1686	
	元禄 5年	1692	
	明和 元年	1764	
	文政 12年	1829	
	天保 13年	1842	
	万延 元年	1860	
	元治 元年	1864	
	慶応 元年	1865	
明治	2年	1869	版籍奉還。都を東京に移す。 廃藩置県。水戸県となる。県庁舎を弘道館におく。 見川小学校創立。妙雲寺を借用。初代校長梅村英氏。 茨城県となる。 常盤神社末社。鎮霊社として護国神社創建。 見川、見和、小吹が見川連合村となる。 千波連合村と合併。 千波尋常小学校見川分教場となる。 市町村制公布。 水戸市制施行(4月1日)される。 市町村制施行により緑岡村となる。見川、見和、小吹、千波、笠原新田、平須の6村が合併。 見川分教場は緑岡尋常小学校から分離独立、見川尋常小学校となる。学区を見川・見和と定める。 見川尋常小学校校舎を稻荷神社の南隣に新築。 多宝院本堂を新築。 義務教育6年に延び、5・6年生は千波尋常小学校に通学。 千波尋常小学校は元の緑岡尋常小学校となり、見川尋常小学校は分教場となった。
	4年	1871	
	6年	1873	
	8年	1875	
	10年	1877	
	15年	1882	
	17年	1884	
	19年	1886	
	21年	1888	
	22年	1889	
	26年	1893	
	31年	1898	
	36年	1903	
	41年	1908	
42年	1909		

## 見川地区の歴史 (2)

時代	年号	西暦	郷土のできごと
大正	12年	1923	9月1日、関東大震災
	13年	1924	徳川家敷地内(見川1丁目)に、彰考館収蔵庫を建造。
昭和	2年	1927	見川に初めて電灯ともる。
	8年	1933	見川稲荷神社拝殿を改築。
	11年	1936	見川駐在所、見川3丁目に開設
	13年	1938	県下大洪水の被害。桜川、沢渡川はらん。水戸市内浸水家屋3788戸。
	16年	1941	3月、小学校を国民学校に改称。 現神域に新社殿竣工、護国神社と改称。太平洋戦争始まる。
	20年	1945	8月2日、水戸空襲。水戸彰考館文庫焼失。 8月15日、終戦の詔勅放送。
	22年	1947	5月3日、日本国憲法施行。 愛宕交通(後に茨城オート⇒現茨城交通)岩間街道にバス運行。
	26年	1951	見川小学校、現在地に校舎を新築移転。
	27年	1952	緑岡村、水戸市に合併「見川町」となる。
	32年	1957	見川・見和町立幼稚園として開園。
	34年	1959	9月、岩間街道陸橋桜山橋完成。 陸橋完成に伴い、見川・見和地区開発が加速。～昭和47年ころにかけ アパートや団地建設が進められた。
	35年	1960	水戸市衛生処理場、大内田に建設。
	36年	1961	第1回水戸市体育祭実施。以後毎年実施されている。
	37年	1962	茨城交通バス桜山線(一本松まで)開通。見川の一部に水道普及。
	38年	1963	彰考館書庫閲覧室再建。
	39年	1964	見川幼稚園、水戸市に移管。見川小学校、緑岡小学校から分離独立。
	41年	1966	多宝院本堂大改修。
	42年	1967	見川小学校、完全給食実施。
	46年	1971	緑岡中学校より分離独立、水戸市立見川中学校発足。
	50年	1975	現町名、見川1丁目～5丁目実施される。
	51年	1976	あけぼの学園発足。水戸市人口20万人突破。
	52年	1977	10月、徳川博物館(現徳川ミュージアム)開館。
	55年	1980	妙雲寺本堂再建。
57年	1982	見川稲荷神社社殿改修。	
58年	1983	見川クリーンセンター竣工。	
59年	1984	水戸市見川公民館(現見川市民センター)開館。大内田センター完成。	
64年	1989	1月7日、昭和天皇崩御。	
平成	元年	1989	3月、滝下橋竣工。 4月1日、水戸市制施行百年記念式典。
	3年	1991	12月、好文橋竣工。
	5年	1993	2月、偕楽園四季の原造成。
	6年	1994	4月、水戸警察署見川交番、見川5丁目に統合移転。
	7年	1995	5月、住みよい見川をつくる会結成。
	10年	1998	4月、もみじ谷供用開始。
	12年	2000	7月、郷土力士「雅山関」大関に昇進。
	13年	2001	9月、矢の目橋竣工。
	14年	2002	6月、見川稲荷神社拝殿・参集殿焼失。翌年完成。
	16年	2004	2月、梅桜橋竣工。
22年	2010	4月、見川公民館が見川市民センターに改称	
23年	2011	3月11日、東日本大震災。見川地区にも被害。	
26年	2014	見川中学校、見川小学校、見川幼稚園の改築始まる。 11月、見川小学校、創立140周年・開校50周年	

### 参考資料

- 1) 見川まつり実行委員会、見川の歴史を知る会編：水戸市制100周年記念事業「見川の歴史」(1989)
- 2) 後藤詮司著：見川散策 2-3、広報紙「住みよい見川」40号(2006)、41号(2007)

